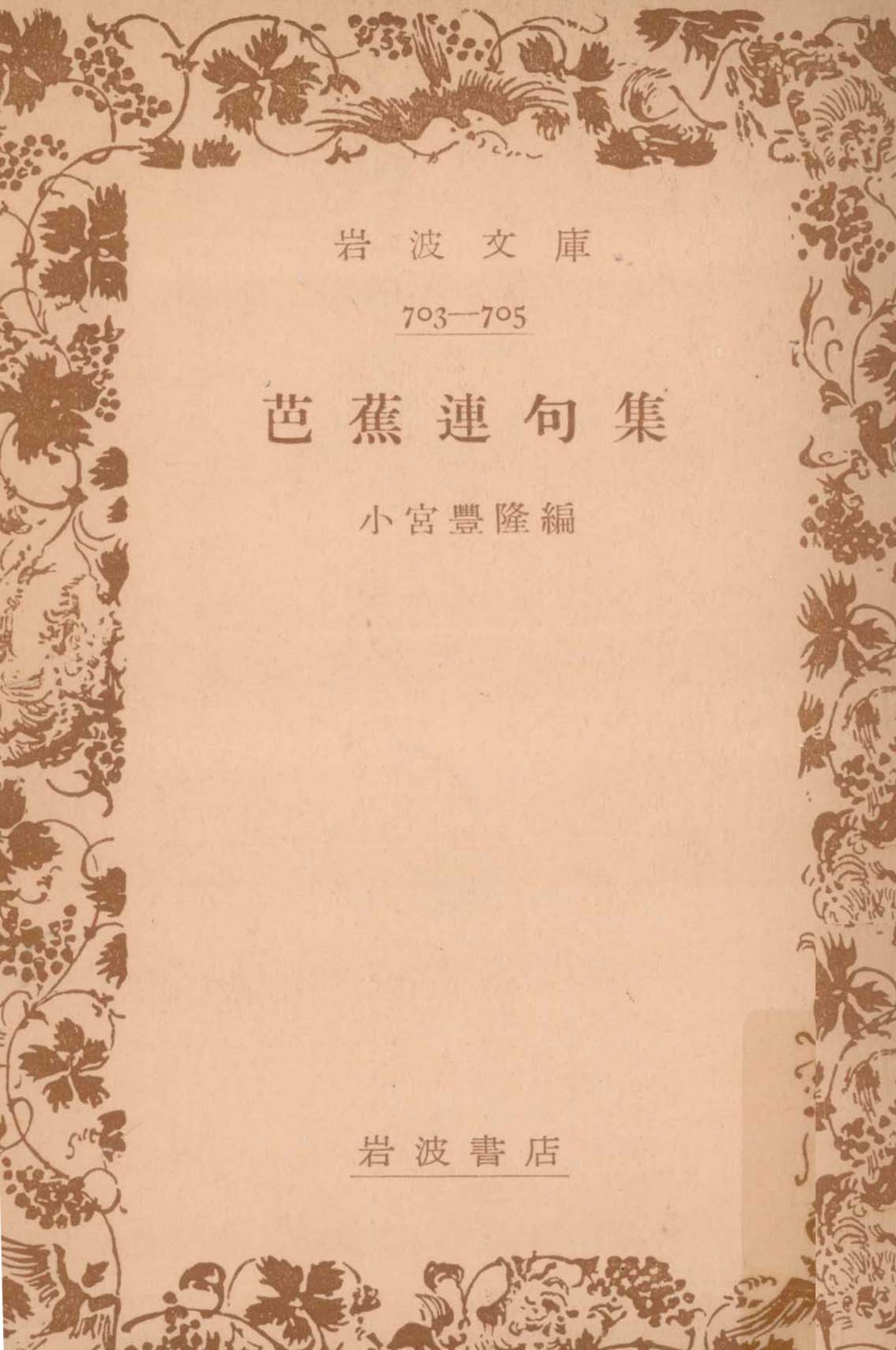




岩波文庫

703—705

芭蕉連句集

小宮豐隆編

岩波書店

昭和五年十二月十日 第一刷發行
昭和二十七年三月十五日 第五刷發行

芭蕉連句集

臨時定價百貳拾圓

編者

小宮 豐隆

發行者

岩波 雄二 郎

印刷者

東京都新宿區市ヶ谷加賀町一丁目三番地
村尾 一 雄



發行所

東京都千代田區
神田一ツ橋二ノ三

株式會社

岩波書店

昭和二十五年一月設定★一ツ參拾圓
昭和二十六年六月臨時★一ツ四拾圓

落丁本・亂丁本は
お取替いたします

大日本印刷・榎本製本

岩 波 文 庫

703—705

芭 蕉 連 句 集

小宮豐隆編



岩 波 書 店

芭蕉連句集

外篇

一 『梅の牛』延寶四年

奉納之百韻

此梅に牛も初音と啼つべし
 ましてや蛙人間の作
 春雨のかるうしやれたる世の中に
 酔みそ交りの野邊の下萌
 摺鉢に若紫のすりごろも
 庭働の男置けり
 牀のひらけ懸りし二日月
 爪立て行足曳のやま
 五寸ほど手の届かざる歌の道

芭蕉庵
桃

青

素堂
信

章 青 同 章 同 青 同 章

ひとかる餘り住よしの松
 淡路島さつと咄のよそに見て
 友呼千鳥笑ひ聲なる
 去程に面白鷺の權之亟
 森の下風さはくくと
 眞葛原踏れて這ふて逃に覺
 蟲鳴までにむごう靡かぬ
 戀の秋爰にたとへの道ぞとよ
 吉祥日のそれ程の月
 あつらへの嬰珞かゝる山かづら
 松の嵐の響くに似たり
 大黒の袋は花にほころびて
 青海苔もろき天竺の衣
 今朝の雪は貧女一錢が糊を解ク

青 章 青 章 青 章 青 章 青 章 青 章 青 章 青 章 青 章 青 章 青 章

風進退を削る竹べら
 臍の尾を吉原通ひ切り果る
 ほりこむ返事うらめしの中
 地にあらば石臼など、誓てし
 末の松山莖漬の水
 千賀の浦鹽釜居ん場の隅
 雪隠さびて見えわたるかな
 逅適にこと問ふものは下駄の音
 猶山ふかく入し水風呂
 よしやよし小糠袋の濁る世に
 千里をかける馬士はあれ共
 雨の月見ぬ六道の札の辻
 焰魔の町く引渡す霧
 煩惱の本綱中綱末の露

青章 青章 青章 青章 青章 青章 青章 青章 青章 青章

章 同 青 章 青 章 青 章 青 章 青 章 青 章

人 穴 ふ か き 早 桶 の 底
 蝙 蝠 や 三 角 の 紙 の 散 迷 ふ
 山 椒 粒 や 胡 升 な る ら ん
 小 枕 よ こ ろ く ぶ し は 引 た ふ し は
 臺 所 よ り 下 女 の 呼 ご ゑ
 通 ひ 路 の 二 階 は 少 し 遠 け れ ど
 か し こ は 揚 屋 高 砂 の 松
 取 な り を 長 柄 の 橋 や つ く る ら ん
 能 因 法 師 御 若 衆 の と き
 照 付 て 色 の 黒 き に 侘 け ら し
 賜 も ち の 木 乃 伊 眼 前 の 月
 飢 饉 年 弱 り 果 ぬ る 秋 の 昏
 多 く は 傷 寒 萩 の 上 風
 一 葉 宛 柳 の 髪 や 禿 ぬ ら ん

青 章 青 章 青 章 青 章 青 章 青 章 青 章 青 章 青 章

是も虚空を這し蚰

判官の身は浮雲の定なき

時雨降をくむかし淨瑠璃

重くれたらうさいかたばち山の端に

松吹風や風呂屋ものなる

君爰に紅の二布の下紅葉

契りし秋は産女也けり

月すごく草履の鼻緒中絶て

河内の國へ通ふ飛石

四疊半屑屋の里も浦●近く

浪に蘆墻仕つたり

時は花入江の雁の中歸り

や名はら一流松に藤まき

いでさらば魔法に春を止め見よ

青

章

青

章

青

章

青

章

青

章

青

章

同

青

七厘暗く入相の鐘
 藥鍋三井の古寺汲あげて
 落させられし宮の打疵
 階の九ツ目より八ツ目より
 湯立の釜に置合せあり
 既に神にじりあがらせ給ひ
 白髭殿は御年よられて
 つくぐと向ふに居る鏡山
 わけ入ル部屋は小野の細道
 忍ぶ夜は狐の穴にまよふらん
 油にあげしねづ鳴の聲
 唐人も夕部の月にうかれ出て
 古文眞寶氣のつまる蘊
 酒の露たはけ起て白雲飛名

青章 青章 青章 青章 青章 青章 青章 青章 青章 青章

天狗だふしや人の倒れや
 直の弱き杉の大木大問屋
 跡をひかへて絲荷よりくる
 秤にて日本の智恵や懸ぬらん
 敵の玉をつらぬかれけり
 花に破籠麓の里は十團子
 日坂越れば峰の早蕨

章青章青章青章

二 『江戸三吟』延寶六年

あら何ともなやきのふは過てふくと汁
 寒さしさにさつて足の先迄
 居あひぬき霰の玉や亂すらん
 拙者名字は風のしのはら
 相應の御用もあらば池のほとり
 海老^エ老^ビざこまじり折節は鮒
 醬油の後は湯水に月澄て
 更^ウてしはく小便の露
 きゝ耳や餘所にあやしき萩の聲
 難波の蘆は伊勢のよもいち
 屋敷方あなたへざらりこなたへも

桃青

信章 信德 青 章 德 青 章 德 青 章 德 青 章

爲替^{カヘ}小判や袖にこぼるゝ
 ものぎはよ理^{コトハ}りしらぬ我泪
 千鱗四五枚是式の戀を
 寺のぼりおもひそめたる衆道とて
 短きこゝろ錐^{キリ}で肩^{カタ}つく
 ぬか釘のわづかのとを云つのり
 露がつもつて鐘鑄^{カネイ}の功德
 うそつきの坊主も秋やかなしむらん
 その一休にみせばやの月
 花の色朱^{シユ}鞆^{サヤ}を残す夕間暮
 いっやきつけの岸の款冬^ニ
 芳野川春もながるゝ水茶碗
 紙袋より粉雪とけゆく
 風青く楊枝百本けづるらん

徳 青 章 徳 青 章 徳 青 章 徳 青 章 徳 青 章 徳 青

德 章 青 德 章 青 德 章 青 德 章 青 德 章